いたる通信 44 新年度号

ITARU CENTER

新屋舎完成！震度7に耐えられる建物です。50年先の未来を見据えています。

目次 contents

01 巻頭言
02 目黒本町福祉工房 あけぼの の作業所 グループホーム＆ケアホーム サポートウイズ
03 いたる相談室 クローバー
04 阿佐谷福祉工房

創立45周年目のチェンジ「阿佐谷福祉工房」

阿佐谷福祉工房長　今（こん）　秀則（ひでのり）

社会福祉法人いたる臨床発達指導センターとして創立し2012年（平成24年）9月11日に45周年を迎えます。

創立時の精神「いたる文化」は、「障がいが重くても、働く意思があれば、施設を利用していただく」という事です。

働くことにより社会参加し所得を得て自立を促し、社会のお役に立つヒトになって欲しいという願いも込められています。

いたるセンターの名称の意味は、「臨床＝医療・福祉・労働の現場」「発達＝発達支援」「指導＝就労指導」「センター＝中心（日本・東京の中心）は、単に杉並区のみならず、日本・東京の福祉の中心」として自主独立の運営をめざす法人ということです。

新屋舎が完成したこの機に、いたるセンターの原点に還り、「阿佐谷福祉工房」に名称をチェンジしました。

生活施設・公立施設というイメージからの脱皮と、「働くことで社会とつながることをめざします」という施設の使命から命名しました。

「ジャン・イタールの思想」を継承し、創立以来の理念に立ち戻り大きく変わりゆく時代において社会福祉法人としての使命を果たすことにつながる名称です。

その基本理念は、「自立と共生を求めて　個性が響きあう　しなやかな社会を目指します」　「すべての人が　社会との関わりの中で　自分らしさと向かいあい　一度きりの人生を　自分らしく　生きることができるように　出会いを　時間を　今を大切に　思いやりと優しさを　未来につなごう　自分のために　社会のために」と謳っています。

いたるセンターが中期事業計画に掲げている一つに「複合化施設を拠点に地域福祉を確立」が、あります。

阿佐谷福祉工房・クローバーは、その拠点としての役割を果たします。サポートウィズ、グループホーム・ケアホームも同様に地域福祉の社会資源として皆様のお役に立ちます。

今後とも皆様のご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

いたる賛助会入会のご案内

「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。

年会費　1口5千円（何口でも可）
郵便振り込み　00107 12892
（問）3392-7346　事務局　蓬田まで

法人新屋舎　阿佐谷福祉工房＆クローバー案内図

屋上等で野菜の栽培

屋上2カ所を農園にして野菜作りなどを行います。屋上緑化によるエコ対策とご利用者様の日常の仕事場となるように活用していきます。

今後の野菜の生産にご期待下さい。

屋上庭園の様子

震災時の避難路の確保

避難用滑り台をはじめ避難用階段、避難はしご等随所に避難路を確保しています。

避難用滑り台

避難はしご

機械浴室を導入

通常の浴室に加え、機械浴室を設けたことにより、今まで以上にクローバーでの重度のご利用者様の受入れを行い易くなりました。

機械浴設備

エントランスホール

自主生産品の販売コーナーの設置を予定しています。

食堂と地域活動室

地域活動室は、体制が整いしだい地域の方々の交流スペースとなるようにしていきます。利用方法等につきましては、決まりましたらお知らせします。

地域活動室

防災用の井戸と発電機

震災時の生活用水として使用することを目的として井戸を掘りました。BDF燃料用発電機の完備も行ない、安全・安心に向けた体制を進めてまいります。

井戸

談話コーナー

【エントランスホール】　下足コーナー

日本財団より寄贈

阿佐谷福祉工房のご利用者様の送迎等で使用するための車として日本財団様よりホンダステップワゴンを1台ご寄付いただきました。

大切に使用させていただきます。

平成23年度 国家資格合格者

【精神保健福祉士】　山崎智子
【社会福祉士】　藤木　恵
前田彩香
白滝則男
【介護福祉士】　文野正広
篠原京子
松本ふみ

合格したスタッフの皆様おめでとうございます。

いたる広報委員
発行責任者＝谷山　哲浩
社会福祉法人いたるセンター
〒167−0032
東京都杉並区天沼1−15−18
TEL：03-3392-7346
FAX：03-3391-8039
Eメール：info@itarucenter.com
HP：http://www.itarucenter.com/
発行日／平成24年4月1日

ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。
いたる広報委員まで。

目黒本町福祉工房
新団長日記

室長　村瀬　史貢

～春の足音を聞きながら～

ただ手を合わせて祈ることしかできなかったあの日から一年の時が過ぎ、粛々とした気持ちと寄り添う間もなく慌ただしく時間ばかりが過ぎている。

年度の切替は例年忙しいものだが、今年は気忙しさがプラスされ、感情の均衡（コントロール）を保つのに必死の状況にある。

遥か彼方の存在に思えていた4月が春の気配とともに足音高く駆け寄ってきたからに違いない。

「いよいよ始まるぞ」という覚悟と慣れ親しんだスタッフとの別離への寂寥感が混じりあい複雑な精神状態におかれているが、為すべきことを残り少ない日々の中で計画的に進めていくことで確かな手応えに繋げていきたいと思っている。

さて指定管理初年度の事業計画を作成するにあたって、重点課題を利用者並びにご家族からの信頼の獲得に置いた。怪我・事故は絶対に起こさないという強い意識を持ち、徹底して安全に重きを置いた支援をしていきたいと考えている。安全に過ぎた一日一日を積み重ねていくことで、信頼が生まれ、新しい絆へと繋がっていくと確信している。

春の足音を聞きながら、前を向いて歩んでいきたい。

目黒本町福祉工房の外観

あけぼの作業所

タイカレーの移動販売

日本財団から助成をいただき、キッチンカーを導入することになりました。

当作業所では、タイカレー（グリーンカレー）を缶詰加工して自主生産品として販売しています。

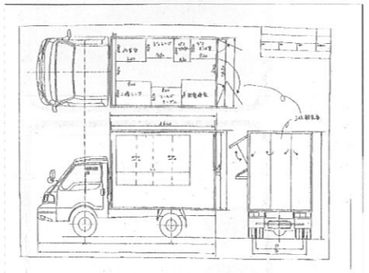
一般のものより辛さを抑え子供から大人まで幅広い客層に食べてもらえる商品になっています。

しかし、カレー類に属するため各種イベント時の模擬店として販売することが難しく、多くの方に食していただくことができませんでした。今後は、イベントや日常販売の営業に向けて準備を行っていきます。

このキッチンカーは、法人の阿佐谷福祉工房で製造しているBDF燃料を使用出来るように、ディーゼル車を使用ベースにしていますが、搭載する発電機もディーゼル仕様です。これにより、他事業部の障害者の就労に貢献することもできます。

また、震災時には、水の補給や温かい食事の提供が容易にできるようになります。

クッキング担当　山田　弘子


キッチンカー想像図

日常のご利用者様の工賃アップの戦力として、地域のイベントに積極的に参加するためのアイテムとして、震災時の安心として、幅広く役立てていきます。

グループホーム＆ケアホーム

安全・安心の実現へ

阿佐谷福祉工房（旧・阿佐谷生活園）の新屋舎完成に伴い旧本部事務所があった荻窪北マンション305号室がグループホーム・ケアホーム（以下GH・CH）事業部の統括本部となりました。

GH・CH事業本部では事務員を含め平日はスタッフを交代で常駐させて、緊急時の対応も速やかにできる体制をとっていきます。

入居者でインフルエンザ発症等隔離が必要になった場合にはGH・CH事業本部または1階のサポートウィズの部屋を利用して家に帰れない入居者の対応を行います。

ショートステイのクローバーとして利用していた清水の物件は今秋には第11ホームとして開所予定にしています。

いままで会議などで利用していた荻窪北マンション202号室は体験型やサテライト型のGH・CHとして活用していく予定です。

これからは今まで以上に入居者のご本人様、ご家族様をはじめ、スタッフの方も気軽に相談できるような体制作りを心掛けていきます。

是非、皆様のご利用をお待しています。

サポートウイズ

サポートウイズは多種多様のサービスを行っていますが今回は介護保険訪問介護を紹介させていただきます。

ご存じの通り平成12年から始まった介護保険事業も12年経ちました。利用者数も右肩上がりに増加しています。

昭和22～23年生まれの第一次ベビーブームの方達が来年より介護保険の世代に入ります。ますます右肩上がりになることでしょう。

介護保険では各地区で介護予防教室を開催し、いくつになっても元気で在宅生活が送れるように努めています。

介護予防は要支援1、2、経過的措置、介護保険は要介護1～5迄あり、利用料金について介護予防は1ヶ月の定額制、介護保険は介護度により利用できる単位数があり利用単位数×10（杉並区は11.05加算）の1割負担が基本です。

支援内容は、身体介護、生活援助があり、身体介護は入浴、清拭、排泄介助、通院介助（一部自費）等を行っています。生活援助は独り暮らしの高齢者の食事作りや環境整備を（掃除等）行っています。

介護保険では理美容室、デパートへ出掛けての買い物、同居家族の洗濯や食事作り等はできません。将来的には高齢化社会に備えての事業展開をしていく予定です。

いたる相談室

いたる相談室長　春山陽子

平成24年度からの動き
～サービス等利用計画案作成に向けて～

厚生労働省は、平成24年度から平成26年度までの3年間に、サービスを利用している方全員（ただし移動支援は除く）に「サービス等利用計画案」を作成（セルフプラン作成もあり）するとし、杉並区は、いたる相談室などの相談支援事業所を月1回以上利用している方から、本人主体の計画を順次作成していく方針を出しています。利用計画は、それを参考にして杉並区が支給決定をし、また、実際のサービスを提供している支援者共通の目標となるものです。計画の作成後に、必要な回数での訪問等（モニタリング）を行い、サービスが適切に提供されているか確認いたします。いたる相談室の利用者の方には説明会を開いていますが、家族の方、施設の保護者会などでも説明をする予定です。

ストロベリーカフェ＆ハイビスカス

相談員　厚地　朋子

いたる相談室では、在宅のサービスの利用が難しい方向けに、グループワークを毎週火曜（ストロベリーカフェ）と金曜（ハイビスカス）に開催しています。布えほんやフェルトブローチなど、利用者の皆さんが興味を持った物を、毎回色々なアイディアをみんなで出しながら作品作りをしています。

作品は、相談室で開催している『作品展』や『えほん展』で展示し、ご家族の方などに説明してもらっています。

また、ストロベリーカフェでは、月1回お菓子作りを行っています。メニューや材料などメンバーが話し合って決め、オリジナルのアレンジを加えながら毎回楽しく行っています。

グループワークでは、作品作りや話し合いなどを通して自己選択・自己決定できる場面を設け、人間関係を構築し、サービスへの利用へとつないでいきます。

ストロベリーカフェ『チョコ作り』

クローバー＆マルコからのお知らせ

新屋舎が完成し、1年3か月間借りをしている現物件とも別れの時期が近付いてまいりました。

建て替え期間中、ご協力いただきありがとうございました。

今後の移転時期とそれに伴う変更部分をお知らせいたします。

マルコ（児童日帰りショートステイ）をご利用の皆様へ！

児童日帰りショートステイを新屋舎のクローバーで行う事になりました。

名称もマルコからクローバーに変更いたします。

3年間ではありましたが、荻窪北マンションでのご利用、誠にありがとうございました。

移転に伴うお知らせ

〔休業期間〕
平成24年4月16日（月）～4月22日（日）

〔閉所時間〕
・日帰り：4月15日（日）16時30分まで
・宿泊：4月16日（月）10時まで

〔住所・電話・FAX〕
住所：〒167-0032
杉並区天沼1-15-18

〔新屋舎開所日時〕
平成24年4月23日（月）11時以降

電話：03-3398-2241（以前と同様）
FAX：03-3391-0293

〔利用定員〕
宿泊・日帰り含めて8名

ご利用方法の変更点

〔予約方法〕
宿泊：今までと同様、利用希望日の1ヶ月前10時から18時まで
日帰り：利用希望日の1ヶ月前11時から18時まで

〔入退所時間〕
宿泊：入所11時から20時まで
※食事提供時間の入所はご遠慮いただいています。
退所8時以降のご利用の方は、食事を済ませてからお越しください。
日帰り：9時から18時まで

※宿泊者数や室内環境、職員体制に応じて、予約時間で調整をさせていただきます。

〔利用可能な時間〕

〔利用料金〕
今まで通りの食費・送迎費に加え光熱水費が別途で必要になります。

※決まり次第、契約時にお知らせします。

移転後の跡地の利用

移転後、内装工事を行ないグループホーム・ケアホームとして引き続き利用する予定となっております。

ご寄付・祝いの品のお礼

阿佐谷福祉工房及びクローバーへの新屋舎のご寄付としてY様より100万円いただいたのを始め、多くの方が落成記念のご寄付や祝いの品を寄贈して下さいました。

また、小森谷敏夫様より、GH・CHへ500万円のご寄付をいただきました。各ホームのバリアフリー他に使用させていただきありがとうございます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今後とも皆様のご協力よろしくお願いいたします。

現在のクローバーの外観

いたるセンター義援金

一刻も早い被災地の復興を願うとともに、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。
義援金は、杉並区経由で福島県南相馬市へ送っています。
（問）3392-7346 本部　浅野まで